

平成 2 3 年  
(2011)

# あわらし観光白書

平成 2 4 年 3 月

あわらし観光商工課

# 平成23年あわら市観光白書

## 1. 平成23年実績

平成23年1年間にあわら市を訪れた観光客数は、1,258,200人(対前年比3.6%の減)で、このうち宿泊客は716,900人、日帰り客は541,300人であった。

### I. 観光地別観光客数

福井県内随一の温泉地でもある「あわら温泉」の723,500人が最も多く、金津創作の森134,700人、ゴルフ場122,700人、北潟湖畔105,300人と続き、その他で172,000人がそれぞれ訪れた。

### II. 発地別観光客数

発地別内訳で見ると、県内客は49.6%の623,600人、県外客は50.4%の634,600人となり、県外客の主な内訳では、関西方面(※1)からの客数が259,900人(県外客の41.0%)と最も多く、あわら温泉が「関西の奥座敷」と言われる由縁でもある。

次いで中京方面(※2)からの159,300人が続き、北陸(石川・富山)方面93,200人、関東方面55,300人の順になっており、関西・中京方面が県外客全体の66.1%を占めている。

(※1) 関西方面とは、大阪・京都・兵庫・滋賀・奈良・和歌山の6県

(※2) 中京方面とは、愛知・岐阜・三重・静岡の4県

## 2. 平成22年との比較

平成22年と比較すると、あわら温泉の宿泊客数は704,500人で、前年の767,100人と比較し8.2%の減となった。

一方、日帰り客数においては541,300人で、前年の524,100人と比較し3.3%増加となった。

### I. あわら温泉宿泊客数減少の要因

あわら温泉は、景気に左右されやすい団体客や県内客への依存度が高く、昨今の景気低迷の影響を受けていることが大きな要因と考えられる。

また、2月初旬の大雪や3月11日の東日本大震災の影響により、2月から4月までの入込が大きく落ち込んだ。

さらに、関西方面からの入込が大きく減少した点については、昨年3月に九州新幹線が開業し、関西方面の方が、九州方面に流れてしまったことが要因としてあげられる

## II. 日帰り客数増加の要因

日帰り客数に関しては、6月に行われた北潟湖畔花菖蒲まつり期間が好天に恵まれたことによる来場者増のほか、金津創作の森でのイベントや企画展が好評で、来場者が大幅に増加したこと等が要因にあげられる。

## III. 総合的要因

観光地毎に分析すると先述した要因があげられるが、あわら市全体で見ると、大雪や震災、景気低迷等の一時的な要因もあげられるが、当市にある数々の魅力的な観光地の情報発信がまだ不十分であることが根本的な要因であるといえる。

## 3. 今後の対策

近年、旅行者のニーズも多種多様となっているだけでなく、昨今の景気低迷も先が見えない状況にある中、観光地の地域間競争を勝ち抜いていくためには、関係者が連携し、新しい観光資源の発掘や人材を生かした魅力ある滞在型の観光地づくりを戦略的に推し進めていくことが必要となる。

### I. あわら市の対策

今後あわら市では、一般社団法人あわら市観光協会の強力なリーダーシップのもと、昨年、藤野巖九郎記念館を移築し完成した「あわら温泉湯のまち広場」をはじめ、あわら市の魅力ある地域資源を生かし、こちらも昨年から始まった「越前あわら・三国温泉泊覧会」等において、郷土色豊かな着地型旅行商品の開発・販売による観光客の誘致を進めていく。

また、将来の誘客につなげる目的で始めた「学生合宿誘致」においても2年目を迎え効果を挙げていることから、今後も若年層へのPRを積極的に行う。

### II. 広域連携

あわら市では、「越前加賀広域観光推進協議会」「福井坂井奥越広域観光圏推進協議会」・「芦原温泉駅ブロック観光開発協議会」等を通じて、近隣市町と連携した観光施策の展開を図っている。

さらに、昨年発足した「越前加賀宗教文化街道推進協議会」においては、宗教文化をテーマとし、ターゲットを首都圏の成熟世代（団塊世代）に絞り、積極的な観光客誘致施策を実施していく。